



## 東京藝術大学の貴重古典籍 約560点をデジタル公開へ

藝大附属図書館所蔵古典籍を国文研でデジタル化

### 概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では、東京藝術大学附属図書館（以下、「藝大図書館」）が所蔵する古典籍（江戸時代以前の本）のデジタル化を行っており、今後WEB上で一般公開してまいります。

**第一弾として、藝大図書館所蔵の貴重古典籍のうち556点を、本年9月27日（金）に国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開いたしましたのでお知らせいたします。**

藝大図書館は、前身の東京美術学校、東京音楽学校時代から引き継ぐ美術・音楽に関わる数多くの古典籍を所蔵しており、そのうちの約750点が「貴重書」に指定されています。日本の美術史・音楽史を研究するうえで欠かせない資料群といえますが、見るだけでも楽しい絵手本や、歌舞伎愛好家にはたまらない「役者評判記」など親しみやすい古典籍もたくさんあります。

藝大図書館の建て替えに伴い、国文研は平成29年夏に古典籍を預かり、デジタル化を開始しました。協本文庫や他の古典籍についても「新日本古典籍総合データベース」より順次公開予定です。

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでもご覧いただけます。ぜひご活用ください。

- 公開年月日：2019年9月27日（金）
- 公開数：556点（作品数）・65,763コマ（画像ファイル数）
- 公開サイト：新日本古典籍総合データベース：<https://kotenseki.nijl.ac.jp>  
藝大図書館所蔵の公開作品リストはこちら▼  
<https://kotenseki.nijl.ac.jp/page/list-tkgl.html>

● 利用条件：

どなたでも公開サイトから閲覧が可能です。

画像の転載を希望する場合は、東京藝術大学附属図書館にお問い合わせが必要です。

ただし、本件報道に関わる画像は、別紙記載のURLよりダウンロード及び報道目的での利用が可能です。

### 本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター  
事務室 管理係  
E-mail: [cijinfo@nijl.ac.jp](mailto:cijinfo@nijl.ac.jp)  
TEL: 050-5533-2988 / FAX: 042-526-8883

東京藝術大学附属図書館 情報サービス係

E-mail: [jservice@ml.geidai.ac.jp](mailto:jservice@ml.geidai.ac.jp)  
TEL: 050-5525-2429 / FAX: 03-3828-8298

## ■ 共同プレスリリース ■

## 東京藝術大学および国文学研究資料館のご紹介



TOKYO GEIDAI

## 国立大学法人 東京藝術大学

東京藝術大学は、国立学校設置法の公布施行により、東京美術学校（現在の美術学部）、東京音楽学校（現在の音楽学部）を包括して1949年に設置されました。

現在は、美術学部（絵画科・彫刻科・工芸科・デザイン科・建築科・先端芸術表現科・芸術学科）、音楽学部（作曲科・声楽科・器楽科・指揮科・邦楽科・楽理科・音楽環境創造科）の2学部14学科と大学院4研究科（美術・音楽・映像・国際芸術創造）、附属図書館、大学美術館、演奏芸術センター等の施設で構成されています。

我が国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことを使命としています。

【東京藝術大学 ホームページ】

<https://www.geidai.ac.jp/>

【東京藝術大学附属図書館 ホームページ】

<http://www.lib.geidai.ac.jp>



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

## 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

平成26（2014）年度からは、人文系では初の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」がスタートしており、国文研が中心となって国内外の大学等と連携し、日本語の歴史的典籍のデジタル化と、国際共同研究ネットワークの構築を推進しています。

【国文学研究資料館 ホームページ】

<https://www.nijl.ac.jp/>

【日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画】

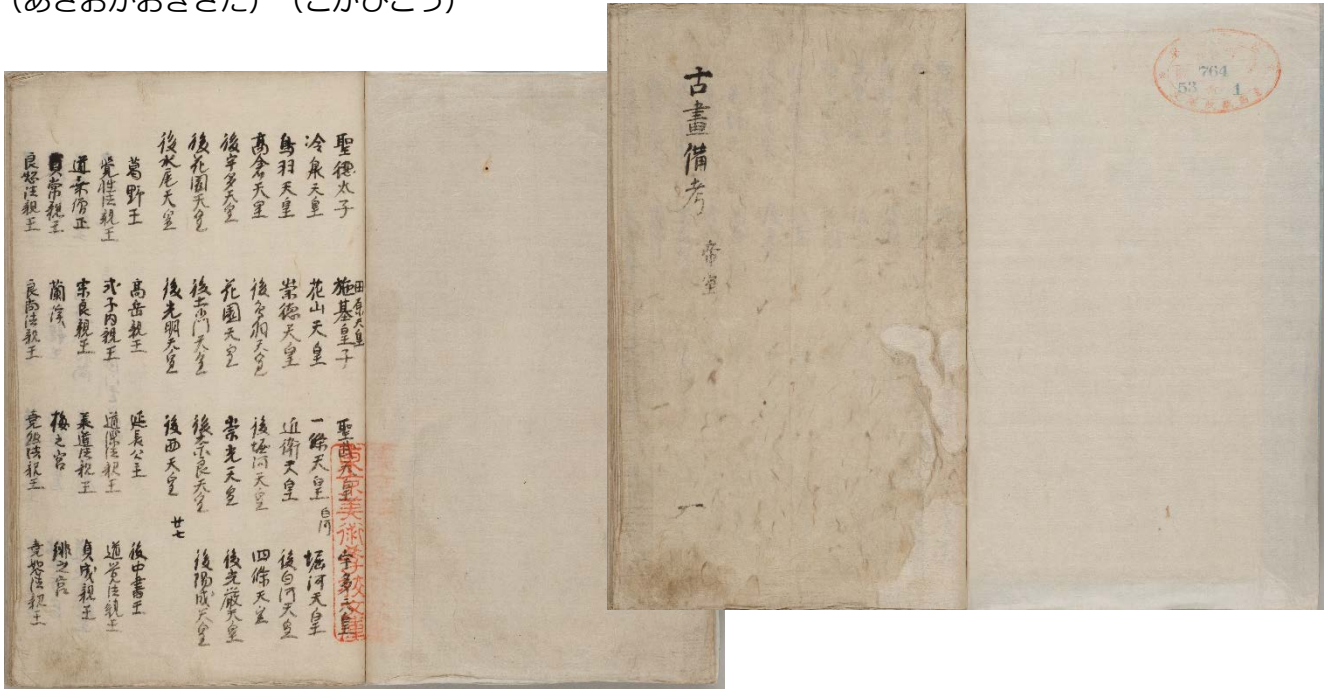
<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>

## ■ 別紙 ■

今回公開された資料のいくつかをご紹介します。  
【美術関連資料】

## 朝岡興禎『古画備考』48巻53冊（自筆原本）

（あさおかおきさだ）（こがびこう）



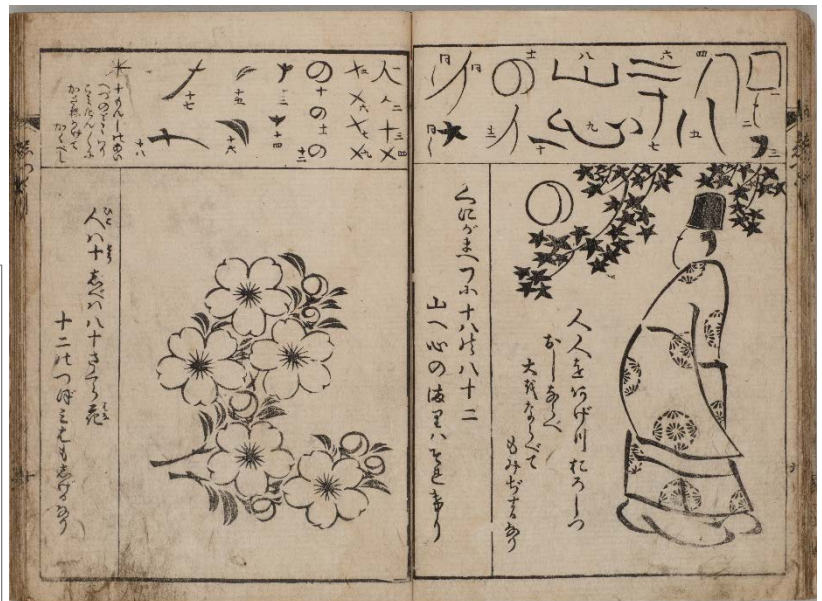
江戸時代後期の画家・美術史家で、幕府の御絵番掛りも務めた朝岡興禎（1800-1856）による日本画人伝『古画備考』の**自筆原本**。嘉永年間に成立。日本の古代から江戸時代末期にわたる絵画の作者に関する資料を集めたもので、日本絵画史の基礎資料として重要な書物。  
<https://doi.org/10.20730/100269694>

## 葛飾北斎『夢多字画尽：北斎画指南』1冊（刊年不詳）

（かつしかほくさい）  
（むだじえづくし：ほくさいがしなん）

葛飾北斎（1760-1849）による文字絵の教材。上段に書かれた文字を数字の順に書いていくと絵になるもので、完成図が下段に数え歌とともに記されている。

<https://doi.org/10.20730/100266031>



### 画像の報道利用について

本件報道に関わる画像は、以下のURLよりダウンロード及び報道目的での利用が可能です。

[https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20190927\\_release\\_suppl.zip](https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20190927_release_suppl.zip)（2020年3月31日まで公開）

※報道目的以外で画像の利用を希望する場合は、東京藝術大学附属図書館にお問い合わせが必要です。



## ■ 別紙 ■

今回公開された資料のいくつかをご紹介します。

## 【音楽関連資料】

## 『劇場年浪草』全45冊

(しばいとしなみぐさ)



江戸歌舞伎の興行案内で、出演する役者名や演目などが記された紋番付（役割番付）を合わせて綴ったもの。享保18年（1733年）～寛政11年（1799年）までの30冊と、寛政11年～慶応3年（1867年）までの15冊が存在。江戸における歌舞伎興行の歴史研究において重要な書物。

享保18年～寛政11年

<https://doi.org/10.20730/100276527>

寛政11年～慶応3年

<https://doi.org/10.20730/100276530>

## 役者評判記

歌舞伎役者の技芸などの批評書。1700年頃以降、黒表紙・小型横本で、三巻三冊から構成され、狂言の諸場面の挿絵と役者の芸評の記述がなされる形態が標準的なものとなった。藝大図書館には、宝永7年（1710年）の『役者謀火燵』から慶應2年（1866年）の『役者金剛競』まで、約180点の役者評判記が残されている。

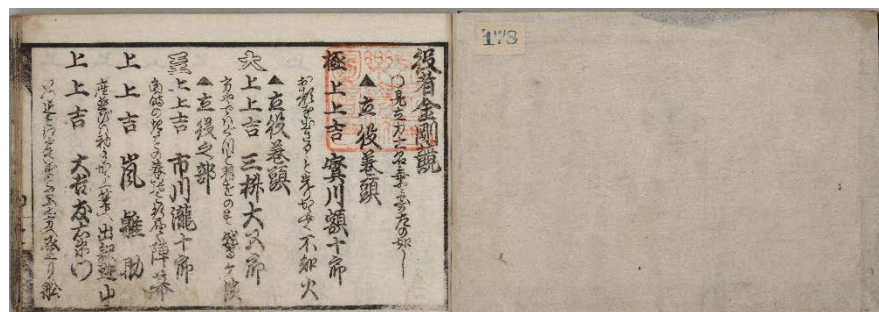


『役者謀火燵』存1巻1冊

(宝永8年/1710年刊)

(やくしゃくらごたつ)

<https://doi.org/10.20730/100275953>



劇場堂夢遊『役者金剛競』

3巻3冊（慶応2年/1866年刊）

(しばいどうむゆう)

(やくしゃこんごうくらべ)

<https://doi.org/10.20730/100276342>

## 画像の報道利用について

本件報道に関わる画像は、以下のURLよりダウンロード及び報道目的での利用が可能です。

[https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20190927\\_release\\_suppl.zip](https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/20190927_release_suppl.zip) (2020年3月31日まで公開)

※報道目的以外で画像の利用を希望する場合は、東京藝術大学附属図書館に問い合わせが必要です。